

# 巻頭言

## 「中途失聴・難聴者の手話学習」

理事長 新谷 友良

昨年度、協会は日本財団の助成を受けて「コミュニケーション指導者養成講習会」を実施しました。協会として初めての手話指導者の養成事業です。

東京では中途失聴・難聴者の手話学習が非常に早く始まり、昭和50年（1975年）から東京都の主催で中途失聴・難聴者手話講習会が開始されています。そして、この講習会で使用するための学習教材「豊かなコミュニケーション」が平成11年（1999年）に刊行されました。また、協会の自主事業として「手話講習会応用クラス（三田・多摩）」が平成14年（2002年）に開始されています。

一方、区市町村での中失難聴者の手話学習は行政による取り組みが遅れており、地域の当事者が要望を繰り返してもなかなか実施が進まない状態が続いています。そのため、区市町村の中失難聴者の集まりが自主的に手話学習の場を作ったり、何人かの仲間がサークルを作って学習したりするような例が多くあります。

地域での行政による取り組みの遅れは、中失難聴者の手話学習に対する理解不足に原因があるように思えます。東京では多くの地域で手話講習会が開催されていますが、主要な目的は通訳の養成であり、コミュニケーション学習の場ではありません。手話は中失難聴者の大切なコミュニケーション手段ですが、単なるコミュニケーション手段に止まらず、手話で自分を表現し、相手を理解する、そのことを通じて聞こえないという障害を受け止め、人として成長を促す力をもっています。

地域での中失難聴者の手話学習を進めるためには、行政への働きかけと同時に、中失難聴者が求める手話を教える指導者の養成が欠かせません。そのため、手話対策部のみなさんが時間をかけて「豊かなコミュニケーション」指導の手引（入門編）を作成しました。そして、前述の日本財団助成の養成講習会ではこの手引書が指導者の養成に使用されました。

協会は、現在東京都が実施している「東京都手話通訳等養成講習会」に中途失聴・難聴者対象の手話指導者養成クラスを作ることを行っています。また、10月からは協会の自主事業として「手話指導者養成講習会」を開始しています。この手話指導者養成講習会から手話指導者が多数育ち、それらの指導者が地域の手話学習を進めるのが協会の長期ビジョンです。